

## 2026（令和8）年 IEC活動推進会議（IEC-APC）議長賞受賞者

電気・電子分野の国際標準化機関であるIEC（国際電気標準会議）の活動は、市場のグローバル化に対応してますます重要性が高まっています。IECへの日本の貢献と産業界の意見反映を目的に平成3年に設立されたIEC活動推進会議（IEC-APC）は、日本提案のIEC分野で顕著な貢献をした個人またはグループを毎年表彰しています。

本年は9名を、令和8年5月28日(木)の第36回IEC活動推進会議総会で表彰しました。



（後列・左から： 松本氏、長居氏、竹崎氏、関口氏、柿迫氏）

（前列・左から： 今井氏、内山氏、朝日JSA理事長、今村経済産業省イノベーション・環境局審議官、中島IEC-APC議長、大野氏、倉重氏）

※受賞者の所属企業・団体については、活動期間における主な所属先を示します。

議長賞（敬称略・50音順）

### 今井 毅 [三菱電機株式会社]

熱・ガスの相互作用を含むスマートグリッドおよびシステムレベルの標準化・調整・ガイダンスを提供するSyC\_SEの国内委員長として国内委員会を取りまとめると共に、IEC SRD 63586 ED1（熱システム連携需給調整システム）のプロジェクトリーダーとして策定を推進している。

### 内山 健人 [住友電装株式会社]

IEC/TC 23/SC 23Hのエキスパートおよびプロジェクトリーダーとして、電気自動車用充電カブラーの国際会議でリーダーシップを発揮した。これにより、世界の各地域・各国で規格が乱立する中、日本仕様と日中共同仕様の国際規格化に貢献した。

### 大野 敏生 [横河電機株式会社]

計測・制御・自動化システムの国際標準化活動に参画し、OTとITの統合を実現する相互運用規格の策定に貢献。IEC/TC 65国際エキスパートおよび日本代表団長として国際合意形成に関わり、我が国における産業システムのデジタル化・スマート化と国際競争力の向上に責任を果たしている。

### 柿迫 弘之 [三菱電機株式会社]

低圧開閉機器分野を中心に、IEC/TC 121において技術的根拠に基づく継続的な発信を行い、日本に不利となる規格改正の是正と国際標準の健全化に貢献してきた。

**倉重 牧夫 [大日本印刷株式会社]**

IEC/TC 110（電子ディスプレイ）およびIEC/TC 76（レーザ機器の安全性）において国際標準化を推進し、4件の国際規格を成立させた。国際副幹事としてIEC/TC 110運営にも携わるとともに、アカデミアとの連携にも貢献。

**関口 洋逸 [元・住友電気工業株式会社]**

1998年から28年にわたり、IEC/TC 112（電気絶縁材料とシステムの評価と認定）の国内委員会委員として、電気絶縁材料の測定技術に関するIECおよびJISの制定・改定にあたり、特に測定規格策定のための基礎データの取得や調査など、基盤整備の面で貢献した。

**竹崎 元人 [株式会社白山]**

2010年よりIEC/TC 86/SC 86B/WG 4、WG 6およびIEC/TC 86/TC 91/JWG 9において多心角形フェルルール光コネクタに関する国際標準化に参加。各種分科会へも参加し、適合性評価試験を通じて日本がけん引する光接続分野における最先端技術の標準化活動に貢献。

**長居 秀幸 [TDK株式会社]**

日本提案のIEC 60068-2-83成立を筆頭に、IEC/TC 91/WG 3コンビナ、同規格のMTプロジェクトリーダーおよびIEC/TC 91の国際エキスパートとして国際規格の合意形成を主導し、国際規格の制定・改定に日本提案を多数反映させている。

**松本 泰 [国立研究開発法人情報通信研究機構]**

IEC/CISPR SC-Hのエキスパートを務めており、IEC/CISPR SC-H/WG 8では多数の電気電子機器が無線ネットワークに接続された状況において予想される、無線業務保護を目的とした妨害波許容値の設定モデル改訂に大きく貢献している。

以上